第72回日本内科学会講演会 (1975年)

シンポジウム 血液凝固と線溶*

司会者のことば

司会 新潟大学第一内科 松岡 松三

司会 帝京大学第一内科 安部 英

SYMPOSIUM ON THE BLOOD COAGULATION AND FIBRINOLYSIS

Moderator: Matuzo MATUOKA, M.D.

The First Department of Internal Medicine, Niigata University School of Medicine

Moderator: Takeshi ABE, M.D.

The First Department of Internal Medicine, Teikyo University School of Medicine

丁度今から10年前の1965年に、本内科学会の講演会において、わたくしの司会で「血液の凝固と臨床」というシンポジウムが行なわれましたことは皆様御記憶のことと存じますが、この10年間に凝固・線溶の研究は単に出血性素因の解明に止まらず、出血傾向と血栓形成との関連において、基礎と臨床の両面から大きく推進されてまいりまして、凝固・線溶の生体における生物学的意義の解明へと進んできているのであります。

ことに最近では凝固・線溶因子の純化精製の技術が進みまして、因子間の相互反応の機作も一層解明されるとともに、精製された因子の抗体を作製し、免疫学的方法による研究から、凝固・線溶の新しい研究分野が展開され、先天性疾患において、新しい分子異常が明らかにされるに及んで、血友病という疾患の解釈に著しい変革がもたらされましたが、後天的疾患においても分子構造の異常を有する凝固因子蛋白の生成が行われることが

明らかにされてきております。

一方凝固・線溶の両反応系の関与する血管内凝固症候群が注目されてきておりますが、この症候群を呈する疾患は単に内科領域に限らず、臨床各科に亘っておりますので、その診断と治療は臨床医学における極めて重要な問題であります。この症候群の病態生理は生体における凝固・線溶系の意義を解明する上に多くの示唆を与えていると思うのであります。

本日のシンポジウムの演者は非常に多くの応募者の中から、(1) 実験方法あるいは測定法に信頼性のあること、(2) 内容には独創性と新知見のあること、(3) 凝固・線溶の研究にかんして先程申し上げましたような現在の趨勢を知ることができる、という三点をふまえて選定いたしました。

従つて演者はすべて熟達を選士でありますから、本日のシンポジウムによつて臨床医学における凝固・線溶の意義をお汲みとりいただけると存じますが、またお汲みとりいただきたいことを念願して司会の言葉といたします。どうもありがとうございました。それでは安部教授にバトンを渡

* 本シンポジウムは1975年4月4日京都市左京区京都都会館第一ホールにて行なわれた。本シンポジウムは公募されたものである。

してシンポジウムを始めたいと思います。
なお略語を使用する場合には用語を統一するた

めに表に示すような略語を使用することにし
ます。

略 語 表

血液学的検査	HEMAT-EX	hematological examinations
赤血球数	R B C	number of erythrocytes
ヘマトクリット値	H T	hematocrit determination
白血球数	W B C	number of leucocytes
血小板数	P L T	platelet counting
骨髓有核細胞数	N C C	number of the nucleated cells in the marrow aspirate
骨髓巨核球数	M G K	number of the megakaryocytes in the marrow aspirate
骨髓像（普通染色）	BM-DIFF	marrow differential count (Romanowsky stain)
ソーンテスト	THORN	Thorn test
血液凝固検査	COAG-EX	examination on blood coagulation
出血時間	B T	bleeding time
凝固時間	C T	coagulation time
血餅退縮度	R E T R	clot retraction
毛細血管抵抗（陰）	CAPF-N	capillary fragility test (negative pressure method)
同 上 （陽）	CAPF-P	capillary fragility test (positive pressure method)
カルシウム再加時間	RECAL-T	recalcification time
プロトロンビン時間	P T	plasma prothrombin time
同 （一段法）	QUICK	quick, one stage method
トロンボテスト	THROMB	Thrombotest
プロトロンビン消費時間	P-CONS	prothrombin consumption test
トロンボプラスチン形成試験	T G T	thromboplastin-generation test
トロンボエラストグラム	T E G	thromboelastography
部分トロンボプラスチン時間	P T T	partial thromboplastin time
トロンビン生成試験	THR-GT	thrombin-generation test
第Ⅴ因子測定	F.V	estimation of factor V
線維素溶解現象	F L	fibrinolysis
線維素原溶解現象	F G L	fibrinogenolysis
プラスミン値	P L	determination of plasmin activity
抗プラスミン値	ANTI-PL	determination of antiplasmin activity
赤血球沈降速度	E S R	blood sedimentation rate